



旧今井染物屋5周年記念 町家が魅せる技と彩り

～ものづくり実演会～

4月25日（土）10時～16時

実演・展示・販売・体験など

旧今井染物屋は開館5周年を迎えます。
これまでの歩みに感謝し、手仕事の魅力
をあらためて伝える実演会を開催いた
します。
受け継がれる技を、ぜひ間近でご体感
ください。

この町に、技を繋ぐ手がある

体験型イベントや即売会が多いなか、実際に実演を見る機会はなかなかありません。この機会に作り手のぬくもりを、あなたの目で感じてください。

※簡単な体験ができる場合もあります。

上越市高田の風土産業であるバテンレースは、ブレードと呼ばれるテープを型紙に縫い付け、その間をかがることで模様を作り上げる技法です。ブレード以外はすべて手作業という技術を現在も守り続けています。

市で行っている「バテンレース継承講座」2期生の皆様が3月で卒業されました。約2年、技術を学び作り上げた作品の数々と実演を披露します。

機織（はたおり）は、糸を織り合わせて布を作る技術です。縦糸（たていと）と横糸（よこいと）を交差させることで、織物が完成します。織機を使い、縦糸を張り、横糸を通して織り上げる工程を繰り返します。

織機は、布地の模様や質感を自由にデザインできるため、創造性を発揮する場としても魅力的です。

機織は見ているだけでもとても楽しいです。

日本刺繍は、絹地に絹糸を用いて模様を刺していく伝統工芸です。奈良時代に中国・朝鮮から伝わり、着物や帯、仏具の装飾として発展してきました。光沢のある絹糸が生み出す繊細な表現が最大の特徴で、花鳥風月などの自然をモチーフにした図案が多く用いられます。

駒刺繍・平繍・相良刺繍など、地域や用途によってさまざまな技法があります。

バテンレース継承講座（2期生）



高嶋 彩美



アトリエちくちく



蒲池 亮輔



ぬくもり舎



旧今井染物屋



木材を彫刻して形や模様を作り出す伝統的な技法です。日本では仏像や神社の彫刻が有名で、木の温かみや自然な質感が特徴です。木彫りの作品には、動物や人物、装飾品など多彩なテーマがあり、木材の種類によって色や質感が異なるため、作品ごとに独自の美しさが生まれます。

一閑張り（いっかんぱり）は、竹や木などで編んだ籠や器の表面に、和紙を幾重にも張り重ね、柿渋や漆で仕上げた伝統工芸です。軽くて丈夫なのが特徴で、日用品から茶道具まで幅広く用いられてきました。

名前の由来は、中国から日本に伝わった「飛来一閑」という人物が広めたとされる説が有力ですが、諸説がいくつかあります。江戸時代に茶人たちの間で広まり、今日まで受け継がれてきた技法です。

江戸時代末期に建てられた、市内に現存する町家の中でも最も古く最大級の町家の一つです。

旧今井染物屋がある大町5丁目は、高田の城下町が作られた江戸時代から職人町としてあり、その中で染物屋を営み多くの職人や使用人が住み働いていました。上越市を代表する雁木も古い形態の「造り込み式」雁木となっており、通路の上部が空間となっています。